



第3回 出土文化財展

日 時：平成19年6月5日(火)～6月10日(日)

午前9時から午後5時まで

※6日(水)・7日(木)は午後7時まで

※10日(日)は午後4時まで

場 所：掛川市立中央図書館 1階 生涯学習ホール

2007 掛川市教育委員会 生涯教育課

戦国期初頭の大規模な普請跡の発見

高天神城跡

1. 調査地 掛川市上土方竈向 3136 ほか
2. 調査の原因 史跡整備
3. 調査の面積 1,500 m²
4. 調査の期間 平成 18 年 12 月～
5. 調査の内容 平成 19 年 3 月

高天神城跡は戦国時代、遠江において覇権を争った今川・徳川・武田氏の三武将が関わった山城です。

平成 10 年度から史跡整備に伴う発掘調査を実施しており、平成 18 年度には本丸・的場曲輪等の主要曲輪周辺に展開する曲輪群が調査されました。曲輪内からは、建物跡を示す柱穴や礎石跡等は発見されませんでした。通路跡や、曲輪を結ぶ通路の障壁に用いられたと考えられる基壇跡等が発見されました。本丸・的場曲輪の南側からは、防御のための門跡、柵列跡と考えられる小穴が多数発見されました。また、斜面地に平場を確保するために斜面を削ったり、谷地を埋め立てる等の大規模な普請が行われていたこともわかりました。本丸・的場曲輪等の主要な曲輪を守るために、厳重な防御としての普請と作事が行われていました。

出土遺物では、武田・徳川氏が治めていた時代(16 世紀中頃～後半)の陶磁器の他、高天神城の創築にあたる今川氏の時代(16 世紀前半)の陶磁器も発見されました。

普請：堀を掘ったり、土塁・石垣を築いたりする土木工事のこと。

作事：門や櫓などの建築物を建てる建築工事のこと。



的場曲輪下腰曲輪の基壇跡



本丸南下の小穴群



小皿(16世紀前半)の出土状況

縄文時代中期の堅穴住居跡、古墳時代前期の大型堅穴住居跡の発見

高田遺跡(第17次)

1. 調査地 掛川市吉岡1249-1 ほか
2. 調査の原因 茶園改植
3. 調査の面積 1,334 m²
4. 調査の期間 平成 18 年 5 月～8 月
5. 調査の内容



石囲い炉(縄文時代中期)

調査では、縄文時代中期(約4,500年前)の竪穴住居跡1軒、弥生時代後期(約1,800年前)から古墳時代前期(約1,700年前)の竪穴住居跡10軒、土坑墓の他、多数の上坑・小穴等が発見されました。

周辺域では縄文時代の調査例はほとんどなく、石で囲まれた炉を伴った竪穴住居跡は貴重な発見となりました。

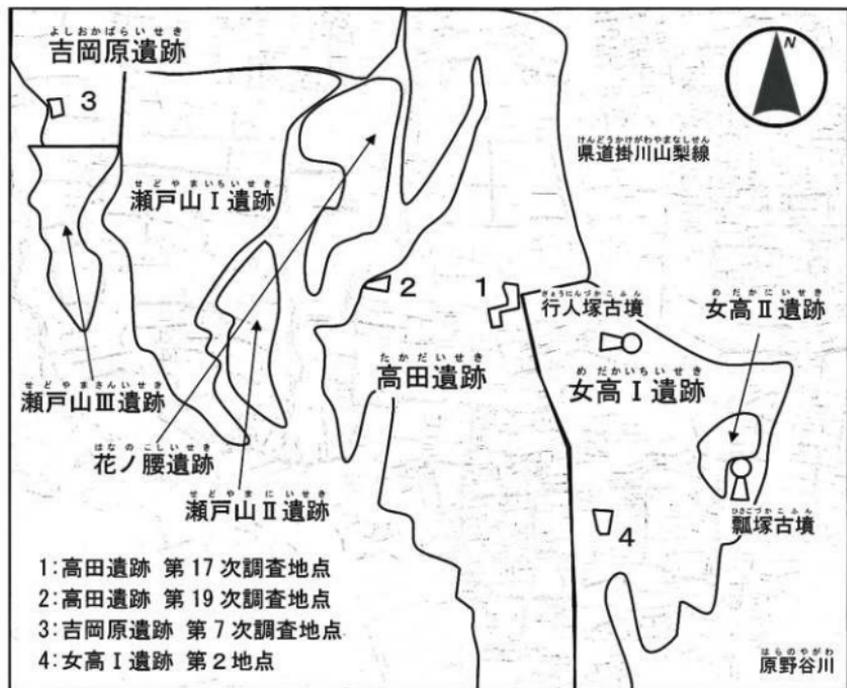
また、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡の中には、当時の一般的な住居の長径が5～6m程度であるのに対し、9mを測る大型のものが発見されました。大型の住居跡を含め、弥生時代後期から古墳時代前期におよぶ竪穴住居跡・掘立柱建物跡、墓跡等が発見され、住居域と墓域の関係を知る手がかりになりそうです。



竪穴住居跡(古墳時代前期)



土器出土状況(古墳時代中期)



こふんじだいちゆうき
古墳時代中期の土器・ゴミ捨て場の発見

たかだいせき

高田遺跡(第19次)

1. 調査地 掛川市吉岡1321-5 ほか
2. 調査の原因 茶園改植
3. 調査の面積 395 m²
4. 調査の期間 平成18年6月～11月
5. 調査の内容

調査では、弥生時代後期(約1,800年前)から古墳時代中期(約1,600年前)の竪穴住居跡12軒、方形周溝墓1基、多数の土坑・小穴が発見されました。出土遺物は、弥生時代後期から古墳時代中期の土器で、この丘陵ではあまり出土例がない古墳時代中期の土器片がまとまって出土しました。不定形な大型の土坑から出土しており、ほとんどが破片であることから、ゴミ捨て場のような場所に土器片が捨てられたものと考えられます。

調査地点は、丘陵の内部ではなく谷地を眼下にひかえた丘陵の縁辺部にもかかわらず、多数の住居跡をはじめ遺構が密集していることがわかりました。周辺の丘陵縁辺部にも集落が展開していると考えられます。



完掘状況1



完掘状況2



竪穴住居跡(弥生時代後期)

きゅうりょうえんべんぶ せんかい
丘陵縁辺部に展開する集落跡の発見

よしおかばらいせき

吉岡原遺跡(第7次)

1. 調査地 掛川市吉岡1673-1 ほか
2. 調査の原因 茶園改植
3. 調査の面積 514 m²
4. 調査の期間 平成18年8月～
5. 調査の内容 平成19年1月

調査では、弥生時代後期(約1,800年前)から古墳時代前期(約1,700年前)の竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡、多数の土坑・小穴が発見されました。出土遺物には、弥生時代後期から古墳時代前期の土器、ガラス玉、砥石等が出土しました。

高田遺跡(第19次調査)同様、丘陵の縁辺部に立地する集落跡ですが、多数の竪穴住居跡が密集していることがわかりました。



完掘状況1



重なり合う堅穴住居跡



土器出土状況(古墳時代前期)

こふんじだいちゅうき さいしじこう
古墳時代中期の祭祀遺構の発見

めだかいちせき 女高 I 遺跡(第 2 地点)

1. 調査地 掛川市高田154-1-2 ほか
2. 調査の原因 茶園改植
3. 調査の面積 392 ㎡
4. 調査の期間 平成 18 年 11 月～
5. 調査の内容 平成 19 年 3 月



堅穴住居跡(弥生時代後期)

調査では、弥生時代後期(約 1,800 年前)から古墳時代中期(約 1,600 年前)の堅穴住居跡 6 軒、方形周溝墓 1 基、掘立柱建物跡 1 棟、溝跡 1 基、祭祀遺構 1 基、多数の小穴が発見されました。出土遺物は、弥生時代後期から古墳時代中期の土器の他、石包丁、石製模造品等が発見されました。

弥生時代後期(約 1,800 年前)の堅穴住居跡からは、火事で炭になった木材・萱等が発見されました。今後、科学分析調査により材質が判明することによって、堅穴住居の構造、当時の植生を復元する上で貴重な資料となります。

方形周溝墓と呼ばれる古墳時代前期(約 1,600 年前)の墓跡は、一辺 8m の墓の周りに幅 1.5～2m の溝を巡らせたものですが、遺骸を埋葬した施設は発見されませんでした。また、その溝の上からは、古墳時代中期(約 1,500 年前)の完全な形の壺・高坏等とともに、剣の形を模した石製模造品と呼ばれる祭りに使用されたものが発見されました。祭りに関わる遺構だと考えられます。同じく古墳時代中期の溝跡は、その溝に近接し建物もしくは柵と考えられる柱穴が発見されていることから、排水のためではなく土地を区画するための溝跡だと考えられます。

この地域での古墳時代中期の調査例はほとんどなく、特に祭祀の跡ははじめての発見



方形周溝墓(古墳時代前期)



祭祀遺構(古墳時代中期)

となりました。また、同じ時期の国史跡和岡古墳群の一つである瓢塚古墳から200mしか離れていないことから、古墳と集落の関係を解明する上で貴重な資料になると考えられます。

大規模な古代道路工事の痕跡…八坂別所遺跡

中世銚物工房跡の一部…牛岡遺跡

縄文時代の食糧加工施設(メノト遺跡)との関連集落…栗下遺跡

八坂別所遺跡・牛岡遺跡・栗下遺跡

1. 調査地 掛川市八坂182-11 ほか
2. 調査の原因 県営農免農道整備事業
3. 調査の面積 6,295 m²
4. 調査の期間 平成8・12・15・16年度(現地調査)
平成18年度(報告書作成に伴う整理調査)
5. 調査の内容

平成8・12・15・16年度に東山口地区の県営農免農道整備事業に伴う埋蔵文化財調査が実施されました。平成18年度には整理調査が実施され、その内容が報告書としてまとめられました。その概要を紹介します。

○八坂別所遺跡

奈良時代(約1,300年前)から平安時代(約1,200年前)にかけての須恵器・土師器とともに、溝跡・柱穴・道路状遺構が発見されました。道路状遺構は全国的に非常に珍しいもので、向くしまった当時の道路面の1m程下から大規模な土木工事の痕跡が確認されました。その土木工事とは、建物の扉材や加工痕のある角材・板材を敷き、さらにその下に樹木の表皮やアシ・ヨシなどの茎を何層にもわたって敷き詰めたもので、低地に道路を造る際の地盤沈下を防ぐ工夫がされていました。

また、道路状遺構の東側からは、和同開珎(708年につくられた貨幣)、豊富な種類の須恵器・墨書土器、陶製の硯である円面硯、硯に転用された須恵器など、一般の集落からはあまり出土しない遺物が発見されていることから、官衙(古代の役所)の一部に相当する遺跡だと考えられます。

○牛岡遺跡

鎌倉時代(約800年前)から戦国時代(約500年前)の集落の一部と、縄文時代の石器を含む層が確認されました。戦国時代の遺物には、金属を加工作していたことを示す鋳物の道具が確認されており、集落の中に鋳物の工房が存在したと考えられます。

○栗下遺跡

縄文時代後期末から晩期(約3,000年前)にかけての堅穴住居跡・掘立柱建物跡・小穴等が発見されました。隣接するメノト遺跡は、栗下遺跡と同時代の遺跡で、ドングリ等の木の実を貯蔵する穴(20基)と、木の実のアク抜きのための水さらしを行った、当

時の食糧加工場とも言える痕跡が確認されています。メノト遺跡の食糧加工としての作業域に対し、栗下遺跡は居住域であることから、メノト・栗下遺跡は同じ集落において作業域と居住域の使い分けがされていました。縄文時代の集落構造を考える上で非常に貴重な遺跡であることがわかりました。



八坂別所遺跡：道路状遺構下層板材出土状況



八坂別所遺跡：道路状遺構最下層



栗下遺跡：小型鉢形土器(縄文時代晩期)



栗下遺跡：耳飾り(縄文時代晩期)

開発予定地内に遺跡はありませんか？ 工事計画の前に確認してください。

掛川市内には現在694遺跡が知られており、県内でいちばん遺跡の多い市だといわれています。遺跡(埋蔵文化財)は、私たちの“心のふるさと。”であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

そのため、『文化財保護法』により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届け出をすることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり、完成が遅れてしまった——ということがないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会生涯教育課にご相談ください。

なお、教育委員会・図書館・支所には、市内にある遺跡の様子を示した『遺跡地図』がありますので、工事を計画する前に必ず確認してください。

掛川市教育委員会 生涯教育課 文化振興室 文化財係
電話(0537)21-1158



明和9年(1772)5月21日(陰曆)、現在の
 ながやこでがや どうたくひとくち
 長谷小出ヶ谷地区において銅鐸一口が発見さ
 れ、掛川藩に届出されました。これは、現在
 の文化財保護法の遺物の発見届と同じこと
 で、掛川市教育委員会では、市民の埋蔵文化
 財に対する理解と保護・保存しようとする意
 識の向上を願い、出土文化財展を開催します。



文化財愛護シンボルマーク